

知っていてくれる

慈しみをいただいて わたしは喜びおどります。
わたしの苦しみをごらんになり
わたしの魂の悩みを知ってくださいました。

詩篇31篇8節より

聖書って一見、むずかしそうですが
よく読むと子育てのヒントがいっぱい。
たとえば上の聖句。いにしへの詩人が神さまを想って歌った詩ですが
彼は大きな苦しみを抱え、魂も悩み、なえはてていました。
しかし今、神さまの慈しみをいただいて躍り上がって喜んでいる、と。
どんな慈しみだったのでしょうか。問題が解決したのでしょうか。
いいえ。解決はたぶんしていません。では、なぜ喜んでいるの？
それは、神さまが自分の苦しみを「知ってくださった」から。

おさない心もこの聖書の詩人と同じ。
ある日、わたしの目の前で一人の子が、すってん、と転んでしまいました。
お怪我はありません。でも、びっくりしたのでしょう、涙がとまりません。
「大丈夫だよ」「怪我はないから」「立ってみようか…」
励ます言葉を、頭をフル回転させて考えるが、どれも効果ありません。
そのとき、泣き続ける子にこんな言葉を保育士がかけました。
「いたかったね…」。
そうやって涙をふいてあげると
その子は泣くのをやめ、自分の力で立ち上がりました。

人間の心って不思議。
わたしたちの人生も痛みや悩みが訪れる。
深い痛み、悲しみであるほど解決はむずかしい。
友だちや他の誰であっても、何もしてあげられない。
でも、「いたかったね…」。その一言で立ち上がることができる。
ほんとうにほしかったのは解決ではない。
ほんとうにほしかったのは、ずっとそばにいて
あなたの痛みを知っているよといてくれる人。
時代や場所や年齢もこえて、人間の心の不思議はかわりません。
(つくし保育園園長 つだ かずお)

<だご教会より>

教会では毎月最後の日曜日を「おとなと子ども共に賛美しようの日」
として楽しい礼拝をささげています。はじめてでも参加歓迎！
礼拝後は暖かくおいしいお食事を一緒にいただきます。
次回は2月26日(日)あさ10:30~
どうぞお気軽におこしください。お問い合わせは事務室。

インフルエンザが近隣で流行しているという情報が届いています。インフルエンザに「うつらない」

「うつさない」ために

- 石けんでの手洗い・うがいを励行するとともに、人混みを避ける。
- 十分な睡眠、栄養をとり体力をつけ、抵抗力を高める。
- 加湿器などを利用し、部屋の湿度を50~60%に保つ。
- 急な発熱や咳等のインフルエンザを疑う症状が出た場合には早めに医療機関を受診してください。(予防接種を受けられている場合、咳の症状のみのこともあります)